

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 明星大学 実施報告書



実施主体 ボランティアサークル「Merci」

実施内容 平成25年11月2日～4日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・サークル内での児童虐待についての認識の確認と勉強会
- ・配布用のオリジナルチラシの作成
- ・本大学のボランティアセンターへのオレンジリボン活動の協力願い

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・文化祭(星友祭)サークル出店場所でのチラシ、リボン、カードの配布
- ・来客者の方へのオレンジリボン活動の説明
- ・文化祭参加部員でのオレンジリボンバンドの着用による個々の意識の向上と文化祭来場者へのアピール

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン活動を行う事により、サークル内で児童虐待についての深刻な問題・課題を、改めて関心の対象として学ぶ事ができた。当サークルの部員が福祉を専門に学ぶ学生で構成されている為、実際にこういった活動を行うという事は今後「福祉」というものに触れて生きていく上で貴重な経験となったと考える。

また、文化祭での活動により、オレンジリボン活動の存在を多くの方に知ってもらえたと共に、児童虐待の問題をメディアを通して知るのとはまた別の切り口から触れる事で改めて危機感を感じてもらえたように考える。

オレンジリボン

オレンジリボンとは??

NPO法人児童虐待防止法全国ネットワークの総合窓口を担っている児童虐待防止の広報啓発活動です。

2004年栃木県小山市で3才4才に及ぶ2人の可愛らしい兄弟が、父親の友人から再三にわたって暴行を受け、息も絶え絶えの状態を楯の上から川に投げ入れられ命を奪われるという痛ましい事件をきっかけに全国オレンジリボン運動が始まりました。このオレンジは理親家庭で育つ子供が「明るい未来を絶」して運んだとされています。

オレンジリボン活動の管轄のハレ福です。オレンジリボンが子供たちとして育つ中、親の心を包み込みます。子供虐待防止オレンジリボン運動にこの力を発揮します。

※詳しくは「オレンジリボン運動」のHPをご覧ください。 明星大学ボランティアサークル「Merci」

オレンジリボン

オレンジリボンって何?

オレンジリボンとは、児童虐待防止運動のシンボルです。厚生労働省は毎年11月を児童虐待防止推進月間に定め、各都府、各地域でリボンカラーの色で埋め尽くすという運動を展開しています。

児童虐待について

日本の児童虐待相談件数は2008年で37,323件、2011年で59,862件と増加しています。この結果は実際には更に増えているのが、感覚件数が増えているか定かたはわかりませんが、(急増傾向の根拠はわかりませんが)これでも少なからず、対策が最優先であるのは、言うまでもありません。

願い
今日、新聞やニュースでも虐待の報道は後を絶たず、親の心の非道や虐待行為に傷つて、最悪命を失う子供の事や、虐待を受けた子供が、想像と異なり、子育ての困難に出来て当たり前、思っています。決していい事ではない、家庭においては想像を絶する苦しみや困難を抱えている例も多々あります。その時、重要になってくるのが第三の勢力、即ち周囲のサポート。周囲の人々が子育ての困難を共にし、家庭のみの問題とせず、虐待防止の子育ての段階から何らかのサポートや介入の必要性が結果として生じている問題、本年に決まらぬと思います。